

Pick Up News

前期の講義も折り返しを過ぎました。設計も前期課題の提出が終わった時期です。ホッと一息もほんのつかの間、また後半課題もスタートしました。設計課題を苦に感じたり、気が重い...という人も少ないことでしょう。ただ、設計課題は、いい設計・デザインをする、ということ以上に、決められたことをキッチリとまとめ上げる、他者に自分の考えを伝えながら、客観性を持った設計をすることなどが大切なことです。社会に出てから、どのような仕事に就くとしても、設計課題を通して培った力は必ず活きます。それぞれ、自分自身の目標を設定して、前の課題よりはさらに一歩先に進めるように努力しましょう。3年生の研究室配属の説明会が7月4日と11日にあります。少しずつ、自分の興味や適性を意識していきましょう！定期試験に備えて、少しずつ復習しながら、備えをしておくことをお勧めします！

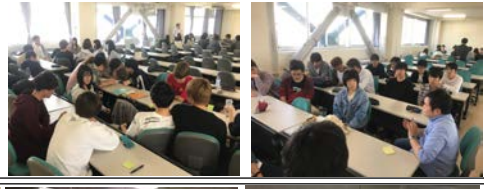
JKM女性建築家 北欧デザインを紹介

東北工業大学（仙台市）今野弘学長と建築学大学院女学生向平川新学長は19日、仙台市内の東北工業大学一番町キャンパスで、建築設計事務所JKMのフレイヤ・ストルベリ・アールト氏ら女性建築家3人を招いて建築講演会を開いた。JKM代表を務めるフレイヤ・アールト氏は、講演で「北欧の建築は、個性を大切に、環境と調和する」と述べ、建築設計事務所JKMの活動について話した。講演後はフレイヤ氏が「Rethinking Architecture」と題して、建築設計の重要性について話した。講演会には、建築学大学院女学生や関係者のほか、建築家や市民ら約100人が参加した。北欧デザインを学ぶには、興味・関心を深めたい。講演ではフレイヤ氏が「Rethinking Architecture」と題して、建築設計の重要性について話した。講演会には、建築学大学院女学生や関係者のほか、建築家や市民ら約100人が参加した。北欧デザインを学ぶには、興味・関心を深めたい。

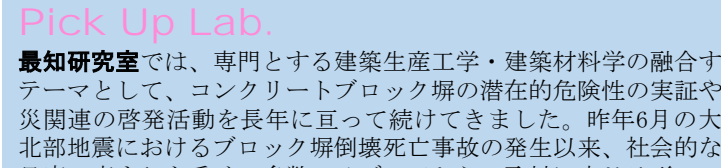
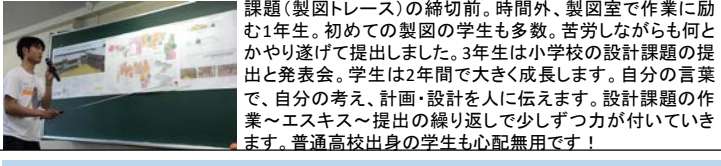


建設通信新聞 2019年6月5日 東北欄

建築入門(1年生)では、大学院生や4年生が直接1年生の質問に答える何でも相談を実施。先輩から試験のこと、研究室配属のこと、勉強の仕方など伝授されました。先輩のまとめた授業ノートを見て「すごい！」の声。



課題(製図トレス)の締切前。時間外、製図室で作業に励む1年生。初めての製図の学生も多数。苦勞しながらも何とかやり遂げて提出しました。3年生は小学校の設計課題の提出と発表会。学生は2年間で大きく成長します。自分の言葉で、自分の考え、計画・設計を人に伝えます。設計課題の作業～エスキス～提出の繰り返しで少しずつ力が付いていきます。普通高校出身の学生も心配無用です！



Pick Up Lab.

最知研究室

では、専門とする建築生産工学・建築材料学の融合するテーマとして、コンクリートブロック塀の潜在的危険性の実証や防災関連の啓発活動を長年に亘って続けてきました。昨年6月の大阪北部地震におけるブロック塀倒壊死亡事故の発生以来、社会的な注目度の高まりを受け、多数のメディアからの取材に応じる形で、蓄積された知見の発信を続けています。何代にも亘って受け継がれてきた研修生の皆さんの地道な努力の結晶である膨大な調査データが大いに役立ち、社会貢献を果たしていることに誇りを感じています。

新たな学際領域を確立

4月に建築学部新設

【建設通信新聞 2019年5月30日(東北欄)】2020年4月開設(設置届出中)の本学建築学部について記事にいただきました。社会が注目する建築学部。新しい教員も迎え研究室が2つ増えます。在学生の皆さんの学びの幅も広がります。乞うご期待！



学長に聞く

「建築学部開設の構想は約10年、学内から多くの関係者の協力を得ながら進められてきたと思います。これまで学内の主軸として工学部1学科としていた、建築学と工学は学問の境目が独立した方がよいと考えていた。本学の建築学部は、建築学と工学の両方を取り入れた学問として、多くの生徒が入学希望を示すようになった。建築学と工学の両方を取り入れた学問として、多くの生徒が入学希望を示すようになった。建築学と工学の両方を取り入れた学問として、多くの生徒が入学希望を示すようになった。

【建設通信新聞 2019年5月30日(東北欄)】2020年4月開設(設置届出中)の本学建築学部について記事にいただきました。社会が注目する建築学部。新しい教員も迎え研究室が2つ増えます。在学生の皆さんの学びの幅も広がります。乞うご期待！



寿永小:大阪北部地震の事故現場



富田小:小学校の危険ブロック塀



4年 鈴木 楓 さん
黒沢尻北高校 (岩手) 出身

Pick Up Student

いよいよ、私も4年生になりました。高校時代は部活動ばかりしており、大学受験に失敗したのが大学生生活の始まりです。しかし、今ではこの大学に進学して良かったと思っています。普通科出身なので、建築の勉強は一からのスタートでしたが、現在まで頑張ることができました。これは、学科長の石井先生や研究室でお世話になっている薛先生はじめ、多くの先生方に手厚いご指導いただいたからです。感謝申し上げます。また、部活動やゼミ活動、中国研修旅行、就職活動、教育実習などの経験を通して多くのことを学びました。残りの学生生活での経験も含め、一年後の社会人生活で活かしていきます。



1年 長南 球紀 さん
仙台高校 出身

Pick Up Student

課題に始まり、勉強やバイト、課外活動等で忙しい日々には少しは慣れてきました。大学に入って思うことは、何事にも自ら積極的に動く姿勢がなければいけないということです。その分自分で責任を持たなければならないし、それをこなすためには計画性も必要になります。しかし、その分これまでとは比べ物にならないほどできることの幅が広がりました。私は少しでも興味を持ったものにはまず参加するように心がけています。先生のお手伝いや、課外活動、オープンキャンパスのスタッフ等、チャンスはそこらじゅうに転がっています。大学は、自分の意思があればやりたいことはなんでもできる貴重な場です。有意義な学生生活を送れるよう、がむしゃらに頑張ってください！